

川崎支部便り 第65号 (2023年6月)

オープンで各自が主役：川崎支部

川崎支部支部長 山岸一雄 (執筆：岸野・山岸)

人生を豊かに(雑学のすすめ)

【誰も知らない世阿弥(ぜあみ)】

世阿弥自筆の「風姿花伝」、能本(能の台本)も10曲ほど残っています。佐渡からの書状(足利義教の時代に70歳を過ぎた1434年に佐渡に流された)も残っています。金山奉行・大久保長安(ながやす)が能役者の出身で、佐渡で能が盛んになりました。佐渡歴史伝説館では、ロボットの世阿弥が雨乞いの舞を演じているそうです。

世阿弥は岩波書店「日本思想大系」の活版組で300ページ近い膨大な伝書を書いています。世阿弥の日常の痕跡は皆無に近いのです。世阿弥が小男であったこと、諧謔(かいぎやく)味があり、座持ちが上手であったこと、8月8日が命日であったことが分かったのも戦後です。

声を大事にして味噌、油を嫌い、「正気散」という薬を用いたこと、舞台の前に沸(た)ぎる程の熱い湯で喉を焼いたこと、楽屋では重湯をすすめたことが「世子六十以後申楽談儀(ぜしろくじゅういごさるがくだんぎ)」にあるにすぎません。そして佐渡が暮らしにくいという書状も。

世阿弥唯一の失敗は、一番人間らしい恩愛の闇でした。甥の音阿弥(1398年生)を後継者に定めた後に実子・元雅(1394年か1401年生)が生まれました。音阿弥は足利義教(1394年生、南北朝を統一した義満の子、金閣寺)の絶大な支援の下、世阿弥父子を圧倒し、70年近い生涯を第一人者として活躍しました。次の大夫を元雅に変えたことが、世阿弥の後半生の運命に長く尾を引きました。



(世阿弥直筆の「花伝第七別紙口伝」後の「風

姿花伝」) (Yahoo Japan より)

(参考：高田明と読む世阿弥)

川崎点描：川崎支部活動拠点

【地域の繋がりと活性化とは】 担当：岸野 哲 (1967年 経営工学科卒)

■私は「岸野さんの旦那さん」

私は1955年(昭和30年)、12歳の時に川崎市高津区久地に引っ越してきた。しかし中学、高校と都内であり、勤務先も母校であったので長年地域とは疎遠であった。

1971年職場結婚し、子供たちが幼稚園や小学校に通いだすと、PTAとかで妻が地域とつながるようになった。さらに1992年妻が民生児童委員に推挙され21年間地域に貢献していた頃、私の本格的な地

域デビューは2007年の久地東町会総務部長就任からで、当時は「岸野さんの旦那さん」として知られていた。

結婚して両親と同居、家を新築、一時8人家族で生活し、子供たちも独立と順風満帆であった家庭が2019年台風19号で罹災（大規模半壊）した。さらに2022年12月30日妻に先立たれた。

罹災に関しては地域をはじめ、実に多くの方々から物心ともに大きな支援をいただいた。町会からは子供育成会と老人会、その他。大学関係からは校友会神奈川県で活動する3支部、卒業生、現役の学生達も来てくれた。神奈川被害者支援センターの相談員の皆さん、おかげさまで社会福祉協議会からのボランティアを依頼したのは1日だけであった。罹災に関する3句を示す。

被災者は 全て失くすと 覚えたり 家族と支え 有りて嬉しき
昔より あまた被害の 起こりしを 支えて興す 国(こ)の民強し
喜寿近し 罹災が決めた 吾が余生 利他を強めて 命輝け

コロナ禍でしかも命日が年末であったため、町会役員にも連絡せず訃報掲示もしなかったけれど、遺体が家にある間に28人が弔問に来てくれた。七七忌が過ぎて友人が酒と肴を担いで来てくれた。うれしかった。妻の無念さが愛おしく、とにかく別れは残酷だ。言葉にならぬので歌を示す。

結ばれし 永久の誓いも ままならず 近づく別れ 心乱るる
死別とは 劫の誓いと 比ぶれば 僅かな前後 されど悲しき
君の居た 思い出多き 時空こそ 吾等が活きた 証なりけり

■「地域とのつながり」の秘策は中学生？

そんな体験から地域とのつながりについての私の持論を示す。

① 適度な距離の認識

昔電線に雀が等間隔に並んでいるのを見たことがある。それが雀にとって快適な物理的距離なのであろう。同じ小鳥でもジュウシマツは重なり合うように狭い巣の中に入る。人間の場合は互いの幸せのためには空間的な距離だけでなく、文化的、社会的にも安心できる距離の存在を認識する必要がある。WBCで活躍した大谷選手が話題になっているからとって、その人がプロ野球に堪能であるとは限らない。近づき過ぎる相手に、人はまず何らかのメッセージを発する。決定的な行き違いとならないように、人付き合いにはそうしたメッセージに敏感である必要がある。

妻に先立たれた友人について「先立たれ 寂しさ漏らす友不憫(ふびん) 共に飲むしか 能の無い 吾」と呼んだことがあったが、このくらいの近さ(遠さ)で丁度良かったのか、今も付き合いが続いている。

② 多様性を認める

これもよく言われることだが、何でもかんでも認めることができるほど我々は寛容ではない。生活習慣や日常生活の話なら大過なく話題に加わることができるであろうが、趣味の話になると知識のレベルの違いが邪魔をする場合がある。特に注意すべきは、場所がらをわきまえて政治や宗教の話は避けるに越したことはない。

③ 黒子という約束

古典芸能で、黒づくめの人々が堂々と舞台に出てきて役者の世話をすることがある。ここでは彼らは見えない（存在しない）との暗黙の約束が成り立っている。病室でベッドの周囲を囲むように白いカーテンが設置されている。あのカーテンが閉められると、音は聞こえてくるが中で何が行われているのか他言無用との暗黙の了解が散在する。

一人暮らし老人の家で洗濯物が取り込まれていないことを通知したことで、救急搬送の結果一命をとりとめたことがあったし、虐待が疑われた家庭を散歩の途中気にかけるなど、周囲の不特定多数の協力で解決に至ったこともあった。

地域においても隣近所の状況に無関心であってはならないが、ことプライベートに関しては他言無用であってほしい。逆にプライベートなことであっても、周囲に知ってほしいことは自ら発信するようにしたい。

さて、地域の活性化の目的は、「有事の際に可能な限り人的被害を少なくすること」だと考えている。それには顔が見える関係の構築が必要であり、前述した繋がりや要素を軽視することはできないであろう。

さらに助けを求める場合の発信手段や、それを受けた体制の構築といったソフト面については、急に考えてもうまくいかないであろう。地域の歴史や文化の利点を伸ばしながら、変化に柔軟に対応する不断の努力が求められる。常時何らかのイベントが開催され、楽しく集まることができることなどは、あくまでも手段であり、労力とコストが目的への貢献度にならなければ、情性で続けることはない。

飛躍するが、私は中学生を軸にした展開が良いと思う。少子化の影響で地元の中学生人数が気になるところであるが、町会挙げて中学生に期待する活動を起こすのは早いほうが良い。有事はいつ発生するか分からない。近くにいて頼りになるのは中学生であろう。彼らを頼みとするにはそれなりの投資が必要となる。しかもその投資の効力が3年で消滅してしまうものであってはならない。

そうした具体的な取り組みは種々考えられるが、私は彼らに自分で考え、計画し、実行する経験をしてもらいたいと思っている。そのために例えば1年生の時には（生まれ）育った地域について広い視野で認識してもらおう。2年生ではこの地域をどうしたいのかをまとめてもらおう。そして3年時にはその方策をできるだけ推進してもらおう。

このような働きかけにより、中学を卒業しても地域がどうなっているかに関心があると思うし、将来就職等で地域を離れてもその気持ちは変わらないことが期待できるであろう。

勝手なことを言ってきたが、随筆リレーということで、こんな輩も居るのかと一笑に付し、お許しいただければありがたく存じます。

支部の活動

- ① 2023年4月22日（土）理工学部 白木教授による校友会10周年タイアップ事業の川崎支部企画の第2弾、第23回定例講演会を開催しました。「本学の創立の経緯と建学の精神」で知られざる裏

話が聞かれました。

以下は動画のリンクです。クリックすると視聴出来ます。

<https://youtu.be/18kr1fq1bvo>

- ②2023年7月22日(土)は夢キャンパスで第24回定例講演会「川崎を詳しく知ろうー公害の町から住みたい街へ 武蔵小杉周辺の開発」(14時から)です。講演者は、元川崎市役所 まちづくり局 施設整備部 部長 木村弘一です。無料です。

ご存じですか

【世阿弥の男時（自分がツク）と女時（相手がツク）とは？】

次の第4代将軍足利義持の高い美意識は世阿弥を磨きました。苛烈な性格の第6代将軍・義教は父への面当ての様に世阿弥の甥の音阿弥をひいきし、世阿弥の座は冷遇され、弾圧される様になりました。幸か不幸か人気役者として演能の日々に追われなくなったことが、世阿弥に能に何世紀もの命を与える意欲を与え、珠玉の理論と能の作品を完成させたのではないのでしょうか。

座の行く末に絶望した次男・元能（もとよし）の出家。北朝方の武将に暗殺されたともされる長男・元雅の若い死。世阿弥を佐渡に流した万人恐怖と言われた将軍・義教が暗殺された後、都に戻ったのかも謎です。佐渡の体験をエッセイ風の謡に書いた「金島書（きんとうしょ）」、娘婿・金春禅竹への書状が残るのみです。

世阿弥は「男時」「女時」の論を説きました。「男時」はツキが自分に回ってきている時、「女時」はツキが相手に行っている状態。時の間も勝負の神様は行き来すると世阿弥は言っています。「女時」は悪いのではなく、沈静期間であり、充電に必要な時間です。世阿弥の長い女時は、能を現代にまで生き続ける最も長い男時になります。

世阿弥の血液型は何型だったのでしょうか。

(参考：高田明と読む世阿弥)

皆様のご意見・ご感想をお待ちしています。

(連絡先：kawa_matsu51@v00.itscom.net 松本幹事長宛)